

# 来ふらり65

## 言語、文字、農業、...

図書館長 小谷 正博（理学部教授）

西郷隆盛がアメリカに使節として渡ったとき、アメリカ高官との会合の席で隆盛が「西郷でござす。よろしゅうお願い申します」とか挨拶してドンと座った。通訳は困って、長々とひきのばして英語の挨拶に翻訳した。これを聞いたアメリカ人達は「日本語というのは短い言葉でたくさんの意味を伝えられる、情報量の多い言葉らしい」と感心した、という話が伝わっている。

これは冗談のような話だが、もう一方で、本を外国語に翻訳すると、何語に翻訳しても、みな、だいたい同じ厚さになる、という観察もある。ある量の情報を伝えるには、どうしても一定の字数が必要だということである。ある面積に書き込める情報量はどの言語を使っても大体同じだ、といってもいいかもしれない。

中国語に訳しても結果はほぼ同じだという。

漢字は一字一字が意味をもつから、表音文字を使っている言語にくらべて情報がずっと濃いかと思うと、そうでもない。これはちょっと意外である。

ただ、ロシア語だけは例外で、ロシア語に訳すとどの本もみな厚さは5割増しになるのだそうだ。もっとも、これを私に話してくれたのはロシアぎらいのラトビア人だったから、この部分はすこし割引いて聞かなければいけないかもしれない。

似たようなことは話し言葉にもあるようだ。これらはみな、ずっと深いところで人間の情報処理能力と関係しているにちがいない。昨年暮にテレビをみていたら、「世紀末大特集」番組のひとつに、人類がこれまでに成しとげた最大の発明は？というのがあった。キャスター、ゲスト、視聴者も加わっての大論議の結果は、1位が言語、2位が文字で、3位は農業であった。あるゲストの辞、「なにしろ、言葉がなくては考えることも出来ないわけですから。」

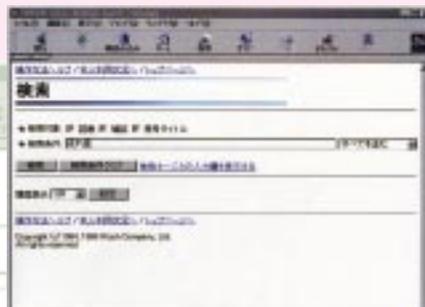
# OPACが変わります！

運用課 北村 誠

この4月から図書館システムの更新に伴いOPAC（オンライン閲覧目録：Online Public Access Catalog）が変わります。学内の所蔵情報を調べるために利用されている方も多いと思いますが、今回は新しいOPACの特徴をいくつかご紹介します。

## A．2種類の検索画面

入力するフィールドが1つで検索語を入力するとタイトルや著者名、件名などから横断的に検索する簡易検索画面と項目ごとにフィールドが設定されている詳細検索画面の2種類があります。



## B．曖昧検索

『国文学』と『國文學』などの表記の違いや大文字と小文字、ひらがなとカタカナはすべて同じものとみなして検索します。

## C．履歴

検索した結果は履歴として保存されます。検索結果を再確認したい時や絞り込み検索に利用できます。

## D．ブックマーク

複数ある検索結果の中から興味のあるものをチェックすると後でまとめて目録情報を確認したり、印刷することができます。



## E．リンク検索

検索結果の詳細情報画面において、シリーズ名や著者名、件名がリンクされている場合、各々に関連する資料が検索できます。

検索画面や検索項目などは今後変更になる場合があります。また大学図書館では新OPACの講習会を開催する予定です。ふるってご参加下さい。

# ABC- デビュー!!

総務課情報システム係 入村 和彦  
 (4月より学習院女子大学図書館勤務)

目白キャンパスの東端に位置する大学図書館は、数年後に築40年を迎えようとしている。「本院21世紀計画」による新築・改築で、キャンパス内の研究棟や教室棟などは年々リニューアルされているが、大学図書館は建設当時の顔(外観)をそのまま残した施設の一つとなっている。

地味な色合いの外壁を持つ3階建ての大学図書館は、木々に囲まれているため一層目立たない存在に感じる。しかし玄関を1歩入れば、その印象は払拭されるかもしれない。入口の入・退館ゲートの向こうで、「おかしな面構えのキャラクター」が画面の中からこっちを気にしている。

遠目には何をやる機械かわからない。この目付きの悪いキャラクターは利用者を監視している訳ではなく、利用されることを待っている。これが「ABC(自動貸出機: Auto-matic Book Circulation) - 」である。本学では、大学図書館に2台・法経図書センターに1台のABCがあり、その大学図書館の1台が本年4月に更新された。

前代のABCは、利用ガイドやエラー表示をパネル上の文字のライトアップで知らせていた。「地味な顔」のため人と機械のコミュニケーションが難しく、利用者が「パートナー」とするには時間が必要であった。このABCに「新しい顔」を付け、処理能力を高めたのがABC- である。目付きは良くないが、本人は利用者の役に立ちたいと思っている。資料の貸出手続きも、人手を介さずにできる時代となった。大いに利用してほしい。



## ちょっと書庫までINタビユー 《特別編》

### 「マルチメディア・ラボ」紹介



教材作成支援を目的に、平成11年春、開室しました。4.5㎡の小さな部屋ですが、最新のビデオやコンピュータ機器類がところ狭しと並んでいます。デジタルビデオ編集機・アナログビデオ編集機をはじめ、ビデオ収録卓・音声編集卓・ビデオサーバー卓などがあり、図書館職員とコンピュータシステム支援組織のメンバーが常駐しています。今年は、いよいよコンテンツの充実をめざし、教材作成の具体化・図書館資料のデジタル化に取り組みたいと願っています。

(運用課 霧島浩)

「もしもし、坊やに何かカステラのようなものを持ってきてあげてください。」

坊やとは私のことで、小学校1年生ぐらいだったか。東大の図書館で個室を持っていた小野さんは、卓上電話でこう頼んでくれた。まもなく女性の職員が給仕してくれたケーキと飲み物のおいしかったこと。子供の私は図書館とはどんな所がよく認識できず、お勉強する所だというのが、授業の様子も見えず、不思議に思った。建物や調度品の重厚さに何となく場違いで緊張していた私のようにいち早く気付いた小野さんの温かい心遣いであった。

小野さんとは家族ぐるみで親交があった。戦中には若い職員が応召や病気で欠けていくのを心から心配していた。食糧不足の時代も何かと面倒を見ていた。

中学生になった私を彼は目を細めて、いとおしむように眺め、「そうだ、

### 「小野源蔵さんの思い出」

夜の図書館  
ひとりごと...  
シリーズ④

派遣職員 神矢 芳明

あなたに本をたくさん読ませたい。いい本をね。いい本というのはなかなかないよ。サッカリンみたいなのはたくさん出まわっているけれど。」

サッカリンは砂糖不足の時の代用甘味料だ。

小野さんからは本をもらったことがあるが、「今度またもってくるよ。」といいながらすっぱかされたことも多いが、憎めないお人柄だった。なにしろ手に傘を持ちながら「傘、忘れた。」と戻ってくる人だったから。こんなよいおじさんを思い出すと、今も心が温まる。(小野源蔵氏は、号花城、教育家で文人。昭和の前半、幅広く活躍した。)



図書館では夜のカウンター業務を派遣職員の方に応援していただいています。

「来ぶらり」のバックナンバーは大学図書館ホームページ (<http://www.glim.gakushuin.ac.jp/>) で公開しています。

来ぶらり No.65 2000年4月1日発行

発行責任者：小谷正博 編集委員：八木橋理智子 霧島浩一

学習院大学図書館 〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1 ☎03-3986-0221(代)